

2006年10月17日

蒼天社政治情報センター  
代表・石川 鐵也 様

配達記録つきのお手紙、昨日受け取りました。ちょうど昨日は、原子炉実験所での緊急時訓練があり、多忙に過ごしていました。1週間以内の回答をとのことで、ぎりぎりになってしまいましたが、ご質問いただいた点にご返事します。

1. 国の政策は広く、多くの事柄を考慮に入れながら、練り上げるものです。ただし、現在の国策は一部の利害関係者のみが集まって作り上げられており、国策の名に値しません。貴殿の主張は反対するなら代替案を出せとこのことのようにですが、基本的な代替案はすでに集会でも述べました。日本はすでにエネルギーを使いすぎており、京都議定書による1990年レベルに比べて6%減などという生易しいものではなく、50%削減すべきというのが私の主張です。そして基本的に日本が頼るべきエネルギー源は太陽エネルギーしかありません。ただし、そうするためには長い年月が必要ですので、一刻も早く政策の転換が必要だというものです。そのための政策立案作業に私が参加できるならば参加します。ただし、気に入らない者はもともと議論の場から排除して来たこれまでの国策立案作業に問題があります。
2. 日本の電力会社が原子力を続けてきたのは、独占企業として電気事業法によって利益を保証されてきたからです。まずは、廃物管理を含めきちんと経済性、安全性の責任を取らせることから始めるべきでしょう。なお、太陽光発電や風力発電を含め、いかなる発電方法にも固有の問題があることは当然です。しかし、事故があればいつせいに停止を余儀なくされる原発にもまた安定供給に問題があります。原子力は安定電源だなどという主張であれば、そもそも誤りです。
3. 議論は正確にすべきものと思います。私は原子力発電所が大事故を起こす可能性があることを長い間主張してきました。それは原子力発電所が都会にありと田舎にありと同じです。しかし、都会で必要とする電気を得るためにリスクだけを田舎に押し付けてきたこれまでのやり方が根本的に間違っていると言っています。原発事故はどこで起こしてもいけません。そのためには、原発そのものを廃絶するしかないので。集会当日会場で発言しましたように、前日の岐阜での集会で使った私のレジユメを添付します。ご参考になれば幸いです。
4. 高レベル廃物の管理に必要な時間の長さは100万年です。日本国の歴史など皇紀で数えても未だに2666年しかありません。積み上げてきた科学的な知見を踏まえる

ことなど当たり前のことですが、いったいどのような科学的な根拠をもって安全の保証をするのですか？ 安全の保証ができない方法でごみを埋め捨てにってしまうなど、それこそ無責任の極みです。一言付け加えるならば、安全の保証ができないものはまずは作るべきでない、即刻原子力発電を廃止するというのが私の主張です。

以上

なお、私はいかなる議論も歓迎します。再度のご質問があればもちろんお答えします。ただし、私は私なりに大切な仕事を抱えていますので、ご指定の期限にお応えできないことはあるかもしれません。その旨あらかじめ、お断りしておきます。

大阪府泉南郡熊取町朝代西 2 丁目 1 0 1 0

京都大学 原子炉実験所

小出 裕章

phone: 072-451-2458 (fax 兼用)

fax : 072-452-8193 (fax 専用)

e-mail: [koide@rri.kyoto-u.ac.jp](mailto:koide@rri.kyoto-u.ac.jp)

URL

:

<http://www.rri.kyoto-u.ac.jp/NSRG/index.html>